



山形一中創立45周年記念式典

—市民会館にて—



校長式辞（一部抜粋）

校長 細谷 直樹

本校は、昭和54年4月1日に、小白川にあった旧第一中学校と妙見寺にあった東沢中学校が統合し、ここ松波に、「新たに」開校いたしました。旧一中と東沢中は、ともに昭和22年5月に新制中学校として誕生しました。この時期は、まだ戦後の混乱期、それまでの常識が通じない予測困難な時代であり、そんな中、新たな国を、ゼロから創り上げようという情熱が沸き起こってきたときでもあります。そんな心意気を旧一中初代校長渋谷忠太郎先生が、「新たな国興さんと若人の集う一中に真日のかげよう」と詠みました。また、東沢中の校歌でも、「新たな国おこる時、…徳と知のいざ一つ旗われ等かかげん」と歌われました。この国を興そうというエネルギーは、一中を大きく前進させるエネルギーとして、新一中にも引き継がれ、毎年、創立記念式において、「新たな」が歌い継がれています。

今年のこれまでの一中を振り返ってみると、春の駅伝大会において男女県大会出場を果たしたことを皮切りに、部活動や各種大会での活躍、修学旅行や学年行事、体力別遠足や体育祭などで、たくさんの楽しさと感動を分かち合いました。これは、今の日本が平和であるから、穏やかな心で生活でき、互いのいのちを尊重し大切にしている国だからできることでもあると思います。しかし、この平和はいつまで続くのでしょうか。平和が最も大切であることは、全世界の人が理解しているはずです。しかし、世界を見渡すととても心配な状況になってきていることを感じずにはられません。

私が生まれてからの日本は、平和な国でした。平和な世界を続けるためには、一人一人が、それぞれが考え、そして、その考えを実行していくことが大切なのだと思います。

何も大きなことを考え実行しなければならないと思っているわけではありません。今、一中での生活を楽しく、充実したものにするためにはどうしたらいいのか考えること、それが第一歩なのではないでしょうか。学校は、たくさんの人が同じ空間で生活しています。一人一人には個性があり違う人格であるので、時には、ぶつかり合い、いやな思いをすることがあるかもしれません。けれども、根底に、同じ一中で生活している仲間なんだ、という思いがあれば、きっと分かり合える方法が見つかるのではないのでしょうか。これは、まさに「連峰の精神」そのものであると思います。

「連峰の精神」とは、「山はそれぞれの個性を持っていて、一つ一つが天に向かってそびえ立っている。それらの山が決して孤立しているのではなく、がっちりと肩を組み、ふもとは一つになって、連峰を形づくっている。」というものです。

「私たち一中生は、この連峰のように一人一人が個性をもち、自己を高め、そして、決して孤立せず、互いに高め合いながら一つのまとまり、つまり一中を創り上げるんだ。」というものでもあります。

私は、この「連峰の精神」を大切にして生きることが、平和な世界をつくる礎となると考えています。皆さんには、これからも「連峰の精神」を理解し、本校創設以来のスローガンである「限りなき 前進めざせ 一中生」を心に、高き志を持って生活していったほしいと思っています。

これからも「希望の鐘」の音で始まるこの一中で、「可能性」を信じ挑戦してください。未来に夢と希望をもって平和な社会を創り出してってください。みなさんが、一中やふるさと山形を誇りに思い、家族を愛し、学び続ける人間に成長してくれることを期待して式辞といたします。



創立記念品のクリアファイル

「限りなき前進めざせ一中生」